

クローズアップ インタビュー



瑞宝双光章受章者 **古橋 睦典氏** (71歳)

主な経歴

昭和36年度～昭和43年度 岡崎市立矢作中学校教諭
昭和61年度 愛知県教育委員会西三河教育事務所指導主事
昭和62年度～昭和63年度 岡崎市立矢作南小学校長
平成3年度～平成4年度 愛知県教育センター教科研究部長
平成5年度～平成10年度 岡崎市立梅園小学校長
岡崎市小中学校図工美術部長
平成9年度 愛知県小中学校校長会副会長
平成10年度 三河小中学校長会長
平成18年11月 愛知県教育表彰受賞
平成19年12月 古稀記念・画文集『ひこばえ2』を出版

受章の感想

平成二十一年春の叙勲の発表があり、屋敷町在住の古橋睦典さんが瑞宝双光章を受章されました。古橋さんは永年教職に身を置き、美術教師として生徒に作品を作る楽しさを伝えることに情熱を注ぎました。受章の喜びなどをお聞きしましたので、インタビューを紹介します。

今回の受章は、国からいただいたわけですが、私にとっては

生まれてからご縁のあったすべての方々からくださったものだと思います。小学校の担任の先生や、現在も交流のある当時の教え子などから、祝電やお祝いの手紙を沢山いただきました。大変感激しています。

伝達式の折には、家内ともども皇居にて天皇陛下へ拜謁できました。とても光栄でした。

教師になったきっかけ

子どもの頃から絵を描くのが好きで、中学校卒業の時に先生から美術教師の道を勧められました。元来、子どもが好きでしたので、迷うことなく教師を志し、愛知学芸大学（現在の愛知教育大学）へと進学しました。

大学生の頃には自宅で20人ほどの子どもを集めて絵画教室を開き、時には写生会に出かけるなどして、子どもたちと遊びながら絵を教えていました。

教師の仕事

通常の教材で教えるだけではなく、常に新鮮でオリジナルな教材を考え、開発して周りを驚かせてきました。若い頃は技術的に優れた作品を描くように指導してきました。しかし、次第にそれぞれの個性を生かした作

品を求めるべきだという考えを持ち始め、美術に興味を持って良い作品を作ってもらうように指導の仕方も変わってきました。生徒たちが制作に情熱を傾け、我を忘れて打ち込んでくれる姿を見られるのはとても喜ばしいことでした。

教え子の中には、美術が好きでな生徒、美術が得意な生徒がいて、私と同じように美術教師の道を進んだ人もいます。そういった生徒たちが、私が彼らにかけた言葉を今でも覚えていると話してくれた時は、教師冥利に尽きると感じました。

今、教育現場にいる人たちに

三河には、子どもに寄り添い骨身を惜しまず子どもたちのために取り組もうとする「聖職」と呼ぶにふさわしい教員が大勢います。教育に情熱を傾ければ傾けるほど、子どもが可愛くなります。教師の仕事が面白くなるのです。若い人たちは苦労してでも、子どものためになると思つたことを突き進んで行ってください。それが結果的に、ご家庭や社会の理解を得ることもなります。

ご家庭も、学校や先生をもつ

と信頼していただきたいと思えます。些細なことで学校や教師を批判する家庭では、子どもは伸びていきません。学校、先生、子どもたち、家庭が信頼し合い、教師が伸び伸びとした楽しい授業や指導をしていかないと、子どもが学校を楽しめないと感じることができません。

これからの生活

教員一筋で生きてきましたが、これからは教えることよりも学ぶことをしたいと思っています。退職後に友人に誘われて始めたゴルフは週に1、2回のペースでコースに出るようになりました。以前から趣味だった魚釣りも、より本格的に楽しんでいます。

絵に関しては、少しでも新しい表現をしたい、自分が本当に感動したものを描き続けたいと常に考え、岡崎の絵画サークル「椿会」の展覧会や岡崎の美術教師美術展など、年三回の出品を行うことで、創作のモチベーションとしています。

私はこれまでに、5回の個展と画文集を2回発行しています。今後の目標は、いろいろな方から頼まれた本の装丁や挿絵なども含めた作品展を回顧展として開催することです。